令和３年度　小金井市立小金井第一小学校　　授業改善推進プラン 家庭科

《各学年の特徴》

５年　初めての家庭科の学習に対して、積極的に取り組む児童が多い。調理や裁縫の実習に関しては、実習計画を立てて取り組み、各自のめあてが明確になっていた。包丁の持ち方や食材の切り方、裁縫道具の使い方などの基礎的・基本的な技能を習得しようと積極的に取り組むことができた。また、家庭で簡単な調理や裁縫に取り組むなど、生活に生かしていく姿が見られた。その一方で、実習の時間を十分に確保できなかったため、技能が定着していない児童もいる。

６年　学習活動が２年目となり、どのような学習内容が取り扱われているのか、理解することができた。また、日常生活に関係している教科であることから、単元の内容によっては、身近に感じられ取り組みやすい活動も多い。その一方で、日頃から習い事等で家事に関わることが少なく、初めて学習する児童が多いのも現状である。ミシン縫いや手縫いする活動では、技能面で個人差がある。調理実習や実技学習（手縫い、ミシン）では、夢中になって活動し、児童の意欲が高い教科である。

育てたい力（課題）

５年　生活経験から問題を見い出し、課題を設定する力
目的に応じた方法を考え、改善していける力。

６年　自分でデザインを考えたり、学んだことや創意工夫したことを作品に表したりして、生活をよりよくしようとする力。

☆授業改善の具体策☆

・学習環境の整備　・学習形態の工夫（個→全体→個の学び合い）
・家庭との連携　・ICT 機器の活用　・日常生活との関連化
・ホワイトボードの活用

《知識及び技能》

５年　裁縫やミシンの実習では、ICT 機器を活用して手順を示していく。実習による体験的な活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を定着できるようにする。

６年　５年で習得した知識を活用しながら、日常生活との関連を意識させていく。学習活動で学んだことについて、学校生活や家庭生活に生かすことができるようにする。

《思考力・判断力・表現力等》

５年　児童が生活の中で問題を見いだし、課題解決に向かって取り組めるように、必要感をもたせられる課題を設定する。多様な解決方法が出せるよう、学習形態を工夫する。

６年　自分の生活経験と関連付け、日常生活の中から問題を見いだしていく。学習形態の工夫（個→全体→個の学び合い）を行う中で、自分の考えを分かりやすく伝えたり、計画・評価・改善を行ったりして、よりよい方法を判断・決定する力を付ける。

《学びに向かう力》

５年　家庭生活への関心を高め、生活をよりよくしていくために、衣食住を中心とした生活の大切さを実感できるように、家庭と連携し、授業で学んだことを生活に生かしていける場を設定する。

６年　「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ、生活の中から様々な課題を明確にする。家族や地域の人々との関わりを大切にする心情を育み、生活をよりよくしようと工夫する実践的な力を育む。